

堀川（名古屋）の浄化3年目、悪臭減少・生態系豊かに。
近所の方も実感！



環境浄化



堀川（名古屋）に毎週 EM 活性液を投入している。写真は2012年3月30日、小塩橋での様子。川の水の悪臭は減少している。近所の方が感謝の声をかけてくださるようになった。

【活動紹介】

名古屋市中心部を流れ、工場排水や生活排水の流入により大量のヘドロ堆積と悪臭を放つ無残な溝川と化した堀川。浄化に取り組む団体は多数ありますが、NPO法人 EM あいちでは2009年11月に堀川の浄化活動を開始。昨年は小塩橋から年間150トンのEM活性液を投入しました。2012年5月末までの合計投入量は280トン。今年も年間150トンを目標に、月平均13トンを投入継続中です。

また、昨年1年間で約1万個のEM団子を投入しました。

2010年～2011年にかけて、五条橋下流側右岸と左岸の比較対照実験を（堀川ライオンズクラブとして）実施し、右岸にはEM団子を2～3ヶ月毎に200個程投入。1年間で左岸5cm、右岸は17cmのヘドロ減少を確認。左写真のように右岸のヘドロが減少し、正方形のブロックが二つ見えるようになってきました。

また最近では、小塩橋での浄化活動中に近所の方が来られて、「いつもありがとう」と感謝の言葉をくださるようになりました。川の水から漂うヘドロ臭が減少し、渡り鳥が増えたと、堀川の変化を実感されています。小さな魚が増え、鵜がエサを食べる姿もよく見られるようになりました。

今年2月にスナメリが堀川の尾頭橋付近で目撃され、10日間ほど滞在したと報告されていることから、エサとなる魚が増えていると考えられます。



(2010年2月2日撮影)

堀川（名古屋）・五条橋下流右岸のヘドロ堆積の様子。



(2012年4月24日撮影)

堀川（名古屋）・五条橋下流右岸のヘドロ堆積の様子。ブロックが見えヘドロが減少したのがわかります。

グループの概要

NPO 法人EMあいち 代表 石田紀克

・NPO 法人承認：2010年8月

・会員数：16名

愛知県名古屋市名東区極楽 5-148 TEL：052-709-7600 FAX：052-709-7610

名古屋高年大学 鯉城学園OB・OGが 堀川(名古屋)をEM活用できれいにするためにボランティアで活動中



環境浄化

環境教育



堀川(名古屋)が流れる北区付近にEM培養の拠点を確保、定期的なEM活性液の投入をしています。小学校の子ども達と、一緒にEM団子作りをして、環境への意識を子どもの頃から育てたいと願って、活動をしています。



名東区大坪小学校で紙芝居によるEMの説明を熱心に聞く児童達。みんな興味津々です。

【活動紹介】

堀川エコクラブは、名古屋市の高年大学「鯉城学園」のOB・OG(22期生)を中心に結成。名古屋の歴史と文化を育んできた母なる堀川を浄化することを目的としています。

高年大学のカリキュラムの中で、EMによる生ごみ処理などを学んだOBが、環境浄化にEMを活用したいと、1年をかけて、成果を上げているEMによる活用事例などを視察し、堀川エコクラブを立ち上げました。活動資金として、会費以外には、公的な助成金などに応募して、資材費などの活動資金としています。作業などはボランティアで運営しています。

堀川は汚泥が溜まり、悪臭を放つなど、浄化の必要が叫ばれ、様々な団体が浄化活動をしています。EM関係では、堀川エコクラブとNPO法人EMあいち(P33参照)が取り組んでいます。

堀川エコクラブは、EM活性液を毎月1回1トン投入。7月と8月には月2回の投入をし、冬期の1~3月はお休みするので、年間約11トンの投入をしています。

ヘドロが多い堀川ではEM団子が活躍するということから、EM団子も毎月800個を製造し、投入地点を4ヶ所のエリア(①志賀橋⇄北清水橋②北清水橋⇄田端橋③田端橋⇄金城橋④金城橋⇄城北橋)に分けて順番に投入しています。

小学校での環境学習にも力を入れていて、名東区の大坪小学校、昭和区の滝川小学校、北区の清水小学校でEMの学習会を行いました。またEM団子づくりも一緒に行いました。



堀川に毎月1回、EM団子を約800個作って、投入しています。

グループの概要

堀川エコクラブ 代表 砂場千歳

・活動開始 2009年11月 会員数：45名
EM活動拠点(EM培養など) 愛知県名古屋市北区柳原3-5-10

EM 生ごみ堆肥で花と野菜のプランター栽培コンクール



資源循環

農業

花づくり

2010年の夏野菜コンクールの様子
EM大賞のミニトマト（右下）

【活動紹介】

大自然を模範とする美しく健康的な蘇生型社会の実現を目指し、愛知県名古屋市とその近郊 10ヶ所の拠点で活動を行っています。会員は各自で EM や EM で発酵させた生ごみ堆肥を活用した自然農法栽培を行っています。会員同士の交流と発表の場所として、毎年コンクールを開催してきました。コンクールの出品条件は、EM 生ごみ堆肥を使った土づくりであること、プランター栽培であること。2010年には、フラワーコンクールは 20回、夏野菜コンクールは 16回を迎えました。

昨年からは、コンクール開催をお休みして、若手の新しいメンバーを増やすための人材育成に力を入れています。各地で菜園講座、EM 廃油石鹸づくりなどの講習会を開催し、池の水質浄化活動や、海の日・川の浄化イベントのための EM 団子づくりを行っています。今後は、生ごみ堆肥化を中心とした活動と、環境浄化活動の輪を拡げていく予定です。

手作りの活動アイテムレシピ集（左）と
2011年の活動報告資料の一部（右）

グループの概要

環境浄化をすすめる会名古屋 代表 朝山勉

- ・発足：1993年 ・会員数：240名（平成24年度）
- ・会の拠点：10か所（名古屋市内と近郊） ・運営：委員 19名

できるところからやる。楽しく生ごみ堆肥化、野菜づくり



花づくり

農業

尾張旭市リサイクル広場：生ごみ回収用
バケツが配布のために設置されている

【活動紹介】

尾張旭市の循環型社会推進会議に市民として 2年間参加していた米今さんが、「話し合うだけでなく、自分たちで始める」と行動を起こし、尾張旭市との協力で生ごみ回収の仕組みをつくりました。生ごみ回収用バケツを市のリサイクル広場で配布し、生ごみを和える EM ボカシは授産施設で生産していて、市役所、リサイクル広場及び農協で販売しています。

市民（34世帯）と保育園から出る生ごみを現在 9名で年間 2トンの生ごみを引き取っている。生ごみ資源化協力隊で借りている畑の横のビニールハウス内で、生ごみを EM で発酵させて堆肥化し、野菜づくりをしています。生ごみを提供する側の需要は多いですが、9名でできる処理はこれが限界だとして、自分たちでできるところからやるという、無理をしない姿勢で取り組んでいます。義務感ではなく、自分たちの楽しみとしての生ごみリサイクル活動を続けています。

引き取った生ごみは大型の専用バケツに移し
替えて発酵させ、野菜づくりに活用する

グループの概要

生ごみ資源化協力隊 代表 米今賢二

- ・発足：2010年4月 ・隊員：9名
- ・事務局：愛知県尾張旭市西大道町下大道 3988-9 TEL：0561-54-1870

生ごみリサイクル肥料で農業、地域の資源循環をめざしています



資源循環

農業



赤池農場での農体験塾：今年の塾生の皆さん（中央下）、赤味噌のような生ごみ発酵肥料を溶かして液肥にする（左）、皆で種まき後のネット掛け（中央上）、EM ポカシの追肥（右）、元気に育ったホウレンソウを収穫！（右下）



貴船学区での毎月1回のポカシづくり。
3ヶ月間密閉容器で発酵させ、分配する。



毎月1回の炊き出しイベント。100人を超える近隣の方が参加される。

【活動紹介】

日進市赤池町に450坪の農地を借りて、農体験塾を行っています。赤池農場での農体験塾は今年で2年目。昨年は40名、今年は35名の塾生とともに、EM、EMスーパーセラ発酵C、EMで発酵させた生ごみ肥料等を使った農業の基礎を教えながら、様々な野菜を栽培しています。

農体験塾に取り組むねらいは、地域の資源循環の促進。「家庭で出る生ごみを肥料にしよう!」と呼びかけるだけでは、ひと手間かかる生ごみ処理の取り組みは、なかなか地域に広がりません。EM栽培の家庭菜園の楽しみを知り、自分で作ったおいしくて安心な野菜を食べるといった強い動機をつくるのが、生ごみリサイクルを進めるための近道になると考えています。

資源循環の基本は生ごみ肥料を家庭菜園に活用すること。しかし、畑やプランター栽培ができない方のために、EMポカシ和えの生ごみとEM栽培野菜を交換する活動も行っています。また、生ごみリサイクルに取り組む近隣の貴船学区での、生ごみの発酵に使用するポカシづくりの活動にも協力参加しています。

また、地域防災のために水や米を備蓄し、月に一度炊き出しの練習を兼ねて、近隣の皆さんにご飯と汁物を振る舞うイベントを開催。非常時に備えて日ごろから地域交流を図っています。EMあいち、株式会社EM生活とタイアップして、地域に必要とされる組織を目指しています。

グループの概要

NPO法人EMあいち 代表 石田紀克

・NPO法人承認：2010年8月

・会員数：16名

愛知県名古屋市名東区極楽 5-148

TEL：052-709-7600（平日9:00～17:00）

FAX：052-709-7610